姫路赤十字病院だより

Japanese Red Cross Society Himeji Hospital NEWSLETTER

Vol. 35
January
2022.1

contents

2022年新年を迎えて
循環器内科外来診察室、第2超音波室、脳波室が移動します
採血・採尿検査の自動受付機を設置しました
診療科の紹介　リハビリテーション科
診療科の紹介　放射線診断科
Cooperation Message　地域医療連携室
新型コロナウイルスワクチンの追加接種（3回目）について
2022年、非血縁者間造血幹細胞移植をスタートします
人工呼吸器の取扱い研修会
看護部研修予定一覧
寄贈いただきました
採用・退職
FAX紹介について
がん相談支援センター

日本赤十字社 姫路赤十字病院
Japanese Red Cross Society

2022年新年を迎えて

新年明けましておめでとうございます。2022年（令和４年）の干支は壬寅（みずのえとら）です。「壬」は「妊」の字にも通じ、植物の内部に種子が生まれた状態を表します。一方の「寅」は動くの意味を持ち、春が来て草木が生じる状態を表します。成長の気配を宿しているという点で、二つの文字は共通しています。『壬寅』の組み合わせは相生で、水が木を育む如く「壬」が「寅」を補完し強化する関係で相性は良いとされています。厳しい冬を越えて、芽吹き始め、新しい成長の礎となります。干支にこだわるわけではありませんが、2022年はコロナ禍が収束し新たな道が開ける年でありたいと思います。

２年近く続く新型コロナウイルス感染症は多方面にわたって日本のみならず全世界に多大な影響を及ぼしました。医療界においても然りです。日本社会に目を向けると、コロナ禍にあっても少子・超高齢社会は進行しており、現実なものとして実感されます。人口減少、疾病構造の変化、多死社会、さらには社会保障費の増加等々、医療を取り巻く環境は極めて厳しく、しかも目まぐるしく変化しております。国民にとって質の高い生活ができるよう地域に見合った地域包括ケアシステム構築が今後の重要な課題です。厳しい環境ではありますが、医療提供体制は2040年に向けて、地域医療構想、医師・医療従事者の働き方改革、医師偏在対策が「三位一体」として推し進められており、待ったなしの状況です。

コロナ禍が始まった当初、三位一体改革は停滞するのではと懸念されましたが、新型コロナウイルス感染症を経験したからこそ逆に地域医療構想は加速的に進んでいます。新型コロナウイルスは医療関係者に様々なことを教えてくれました。医療機関はじめ多くの機関の役割の明確化、分担と連携がこれまで以上に重要であること、各医療機関がどのように行動したかが“見える化”されました。これを住民は眺めており、アフターコロナにおける受療行動に大きく影響します。各医療機関の役割、分担と連携の重要性が明らかになり、結果として病院の機能分化が進みます。加えて医師・医療従事者の働き方改革など三位一体改革が具体化されたことも2040年の医療提供体制に向けて加速化の要因となりました。

わたしたちの病院は地域での医療提供体制に向け、これまでと同様、地域中核病院として高度急性期医療を提供する役割に変わりありません。『地域が求める医療を届ける』をモットーとして、体制を整えています。特に高度医療を届けることは重要な役割の一つです。

がん医療、小児・周産期医療を中心にあらゆる分野で機能を充実し、これまで33診療科を整備してまいりました。病院全体の体制を整え、DPC特定病院群の指定を受けております。がん領域では地域がん診療連携拠点病院（高度型）、造血幹細胞移植地域拠点病院など地域で限定された施設に選定され、がんゲノム医療連携病院に選定されるなど多くの施設認定を受け、さらに厳しい施設要件が必要な薬物使用許可を多数取得しており、地域のがん患者さんにあらゆる治療の選択肢を提供しています。小児・周産期医療では、総合周産期母子医療センターとして地域住民に安心して出産できる体制を整えています。その他さまざまの分野で急性期病院としての機能を充実させ、地域住民が求める医療提供に努めています。

医療提供には人材はなくてはならないものであり、医療従事者の育成に力を入れております。医師確保対策として初期臨床研修病院として毎年定員14名がフルマッチ、また内科専門医、放射線専門医研修病院（基幹型）として地域の医師を育てています。看護専門学校を併設し、多くの看護師を地域に排出しています。またいち早く特定行為指定研修機関の指定を受け特定看護師を輩出しており、今後地域で活躍するものと期待しています。

病院として地域包括ケアシステム構築には積極的に係わる方針としています。地域医療連携室を中心に先ずは“小さな地域包括ケアシステム造り”を目標にし、医療福祉連携士の資格を有した人材をも配し、今後この面でも地域への貢献を目指しています。地域住民、患者とのつながりを深めるため、長年の課題であったアメニティー充実を主な目的として、地域開放型多目的ホールを昨年６月に完成し、“連携”を住民に形として表すことができます。少しでも地域に貢献できればと思います。

これまでも・これからも地域あっての赤十字病院であります。高度急性期の役割を担うべく、救急医療、小児・周産期医療、がん診療など少子・高齢社会の中で地域住民に必要とされる機能を整え、心のかよう安全で良質な医療を実践します。そのためにも医師会関係の方々と緊密な連携を図り、紹介患者さんを積極的に受け入れ、逆紹介もさせて頂く方針です。先生方から忌憚なきご意見・ご指導を賜れば幸いです。本年もどうかよろしくお願いいたします。

令和４年元旦

院長　佐藤 四三

循環器内科外来診察室、第2超音波室、脳波室が移動します

令和3年9月から開始いたしました外来の改修工事が4ヶ月の工期を終え、令和4年1月より新しく稼働いたします。
今回の改修工事の主な内容は、
①休止していた健診センター跡Mブロックへの
「循環器内科診察室」、「第2超音波室」、「脳波室」の移設
② 採血検査待合スペースの拡充
となります。

新しくなったMブロックには循環器内科と第2超音波室（心エコー）が併設され、患者さんに利用しやすい導線となりました。
また、生体検査受付を採血・採尿受付と分離することにより、今まで患者さんが集中し、ご迷惑をおかけしていた検査待合の混雑を解消することができます。

年始の1月4日（火）より、Mブロックでの循環器内科の診察、生体検査が開始します。
工事の為、待合スペースの縮小、騒音、振動など患者さんには大変ご迷惑をおかけいたしました。
長期にわたり、ご協力いただきありがとうございました。

Mブロック　循環器内科・生体検査入口

循環器内科・生体検査受付

採血・採尿検査の自動受付機を設置しました

このたび、中央検査室受付前に採血・採尿検査の自動受付機を新しく設置しましたので、多くの方は有人受付を通らずにスピーディーに採血・採尿検査を受けられるようになり、待ち時間を短縮することができます。
さらに採血検査待合スペースが広くなり、患者さんには今までよりもゆったりとお待ちいただくことができるようになりました。

採血・採尿検査の自動受付機

採血検査待合スペース

01

リハビリテーション科

スタッフ紹介

田中 正道　リハビリテーション科部長
（昭和61年卒/脊髄疾患の手術治療とリハビリテーション）

中嶋 望　医師
（平成28年卒/整形外科一般）

山川 大輔　医師
（平成28年卒/整形外科一般）

山下 勝成　専攻医
（平成29年卒/整形外科一般）

皮居 達彦　リハビリテーション科部技師長

中島 正博　リハビリ技術心大血管係長

西村 暁子　リハビリ技術運動器係長

森本 洋史　リハビリ技術呼吸器係長

岡田 祥弥　理学療法士

川合 寛　理学療法士

当科の診療方針

現在リハビリテーション科は、リハビリ指導責任専門医の田中正道を含む医師4名と療法士として理学療法士13名・作業療法士5名・言語聴覚士2名で構成されています。当院のリハビリテーションが担う医療は、急性期のリハビリテーション医療です。ただこの急性期のリハビリテーションが時代とともにどんどん変化しています。つまり、多くの医療関係者が、リハビリテーションに対して持っているイメージは整形外科や脳血管障害に対するリハビリテーションですが、これは、現在、対象疾患全体の約26%に留まっています。それに取って替わってきたのが、当院の特徴でもある癌疾患に対するリハビリテーションです。癌疾患は、ほぼすべての診療科の対象疾患となっていることから、すべての診療科との連携が必要となっています。つまり、リハビリテーションの対象は、病院の入院患者さん全体となっています。さらに、癌治療の高齢化、高度化に合わせて、機能的な面からだけではなく、栄養や精神的状態を考慮した個別性を重視したリハビリテーションが必要となってきております。そのため、他の診療科の医師、看護師、また、多くの関連職種、地域医療機関との情報交換が必要であり、連携を一層深化させております。医師は、私を含めて整形外科的診療も行っているため、随時整形外科と協力して、脊椎疾患の手術を施行しています。最近は脊椎疾患に対して内視鏡的手術も行っています。

学会認定は、日本リハビリ医学会研修施設で、施設基準は、運動器リハビリI・脳血管リハビリI・呼吸器リハビリI・心大血管リハビリI・廃用症候群I・

令和3年度患者統計

初診患者数	3,764人
入院患者延数	3,545人
外来患者延数	219人

平均年齢	71.5±	68.1歳
平均年齢（新生児除く）	72.3±	66.3歳
平均入院期間	21.9±	18.9日
平均リハビリ期間	15.6±	16.3日
平均リハビリ待機期間	4.6±	7.4日
平均PT回数	10.3±	10.3回
平均OT回数	9.5±	8.0回
平均ST回数	10.0±	8.6回

令和3年度診療実績

1月~12月診療実績

理学療法新患処方	6,234例
作業療法新患処方	3,354例
言語聴覚新患処方	1,305例
inbody	315例
リハビリ総合計画書	1,590例
上肢簡易機能検査	4例
嚥下造影検査	4例

がんリハビリを取得しています。

スタッフ、施設の両面から質の高いリハビリを提供できる環境が整っています。急性期病院の入院期間は非常に短くなってきているため、リハビリを効率よく、また効果的に実施する工夫が必要となってきております。そのため、当科では、必要に応じて入院前からのリハビリ介入を入退院センターと協力して行っています。また、クリニカルパスにリハビリを組み込み、入院後は、手術後および発症から症状が安定するまでの期間に、術後合併症や廃用症候群を予防しながら早期離床を目指し、質の高い、より専門的な療法を効率よく実施できるように心がけています。

また、当院の特徴として早産児および極低出生体重児に対しても新生児センター入院中から外来に至るまで、定期的に評価・フォローアップを行い、神経学的な発達の支援を実施しています。

脳血管疾患患者さん及び大腿骨頚部骨折手術後の患者さんに対しては、地域連携クリニカルパスを使用し、円滑なリハビリを進めることができるようになっています。

地域の医療機関の先生方へ

今後、さらに急性期から回復期・維持期への円滑なリハビリを進めていけるように、より多くの病院、施設と連携して行きたいと考えています。当院の役割をご理解頂きまして、ご相談・ご協力賜りますようよろしくお願い申し上げます。

腰痛・肩こり・しびれ・歩きにくいなど、多くの高齢者が自覚されている症状を有する方は、整形外科と協力して積極的に診察させていただきますので、お問い合わせのほど何卒よろしくお願い申し上げます。また、脊椎疾患における内視鏡的手術の対象と考えられる疾患につきましてもお問い合わせのほどよろしくお願いいたします。

リハビリテーション科部長　田中 正道

病棟でのカンファレンス

ICUでのリハビリ風景

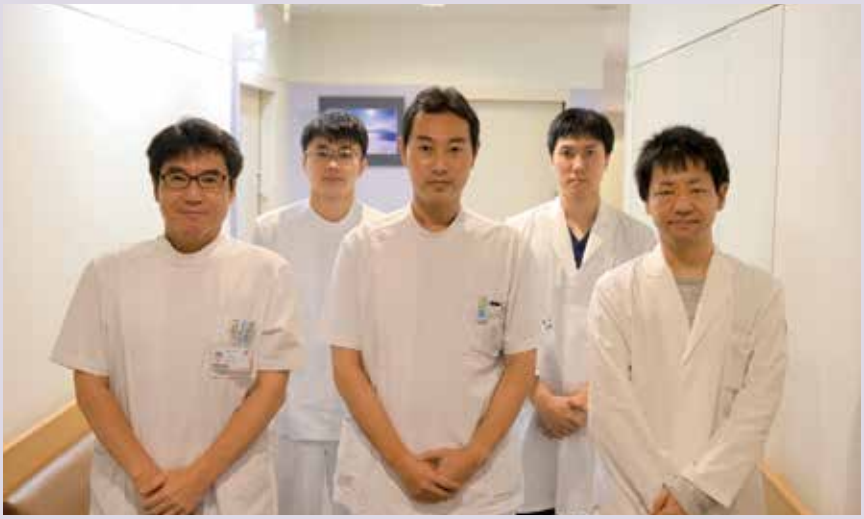
リハビリ訓練室でのリハビリ

病室での
リハビリの風景

NICUでの
リハビリ風景

02

放射線診断科



スタッフ紹介

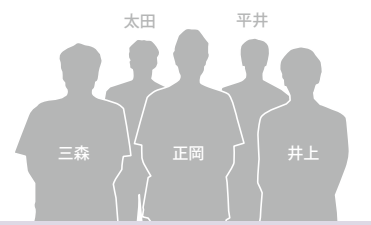
三森 天人　放射線診断科部長
（平成2年卒/画像診断）

井上 大作　放射線診断科副部長
（平成16年卒/画像診断・ＩＶＲ）

正岡 佳久　放射線診断科副部長
（平成18年卒/放射線診断）

太田 佳祐　専攻医
（平成31年卒/放射線科一般）

平井 唯隆　臨床研修医
（平成2年卒）



令和3年度診療実績

CT検査（放射線科読影）	22,352例
MRI検査（放射線科読影）	7,284例
RI検査（放射線科読影）	1,122例
消化管造影検査（放射線科医施行）	305例
IVR（血管系）（放射線科医施行）	59例
IVR（非血管系）（放射線科医施行）	131例

当科の診療方針

放射線診断科においては画像診断部門、IVR部門と大きく二つの分野に分かれています。

画像診断部門ではCT、MRIおよび核医学による画像診断が主体となります。

診断用のCTは320列のマルチスライスCTに加えて4月より最新型のDual-energy CTが稼動し、仮想単色X線画像や物質密度画像を用いて従来の画像では得られなかった情報による病変の評価や造影剤の低減などが可能となっています。

MRIでは6月に最新の3TMRI装置が増設され、現在は3台の3TMRIにて脳神経はもとより脊椎や関節、骨軟部組織、肝臓をはじめとする消化器、乳腺および泌尿生殖器の疾患など、あらゆる領域の診断を行っております。

核医学においてもSPECT-CTに加えて6月より最新のPET/CT装置が稼働し、悪性腫瘍をはじめとする様々な疾患の診療に威力を発揮しています。

IVR部門では血管撮影装置と高性能CTを組み合わせたIVR-CTを用いてTACE（肝動脈化学塞栓療法）による肝癌の治療などや生検、ドレナージに大きな威力を発揮しています。

現在は3名の放射線診断専門医と2名の放射線診断医が専任の放射線技師と協力して高度な総合画像診断、IVRをめざして日常の診療業務を行っています。

地域の医療機関の先生方へ

地域の医療機関の先生方には平素より多くの患者さんをご紹介いただき、ありがとうございます。当科では地域の医療機関の先生方の依頼に基づき、CT、核医学、MRI、PET-CTの各種検査および画像診断を行っています。検査依頼に関してご不明な点などがありましたらお気軽にお問い合わせください。

放射線診断科部長　三森 天人

診療機器（※一部ご紹介）

GE社製 Dual-Energy CT Revolution CT

Philip社製 3T MRI Ingenia Elition X

Siemens社製 半導体PET-CT Biograph Vision

Cooperation Message

地域医療連携室

第48回地域連携カンファレンス報告

10月14日（木）“『挑戦!臨床推論ライブ』驚くべき腹痛の原因他”と題し、新しく増築されたPET・コミュニティ棟多目的ホールよりWeb配信。院内職員は大会議室でWeb視聴と地域医療機関・消防関係参加者はWeb視聴で開催いたしました。

今回は、腹痛を主訴に当院を救急受診された患者さんの事例を基に、森井和彦総合内科部長が司会、臨床研修医5名がプレゼンター・ディスカッサーとなり、臨床推論ライブ形式で2症例を発表いたしました。

1症例をご紹介させて頂きますと、左下腹部痛と発熱があり、近医を受診し腸閉塞を疑われ紹介となった事例でした。大網の穴に陥入した小腸の絞扼性イレウスで、まさしくタイトルどおり「驚くべき腹痛の原因」でした。提示された2事例とも珍しい症例で、臨床研修医が正確に診断し、医師とともに連携し適切な治療が行われ大事に至らず、無事に退院されており、本当によかったと思いました。

コロナ禍で以前のように集合研修ができなくなり、昨年11月からWeb配信して研修を行っています。

私どもは、Web研修の運営経験はゼロに等しく、専門家もいない中で、地域医療連携課スタッフ（看護師・MSW・事務職）を中心に、総務課・情報管理課の協力を得ながらみんなで知恵を絞り試行錯誤しながら運営しています。

特に今回は、初の試みで「臨床推論ライブ」開催いたしました。テレビやYouTube配信されているような映像をイメージし、何度もシミュレーションを重ね準備を行いました。本番ぎりぎりまで機材の位置や音声など何度もチェックを行い、6台のパソコンとiPad を駆使しWeb配信しました。この写真では確認できませんが、とても多くの配線やLANケーブルを使い、テレビスタジオさながらの環境でした。

カンファレンスにはWeb参加74名と、とても多くの方にご参加いただきました。参加者から「ディスカッション形式で自身も考えながら視聴ができとても勉強になった。」「またこのような形式で開催してほしい。」など、うれしいご意見を多数いただきました。しかし「音が少し聞こえにくかった。」「画面が一部見えづらかった。」などのご意見も頂きました。今後は頂いたご意見を参考に、Web研修開催における更なる技術の向上に努めてまいります。次回の地域連携カンファレンスは、2月3日に開催を予定しております。皆様のご参加お待ちしております。

地域連携係長　金澤 有紀子

多目的ホールのWeb配信

大会議室のWeb視聴

ZOOM UP

ワクチン接種に関する情報

新型コロナウイルスワクチンの追加接種（3回目）について

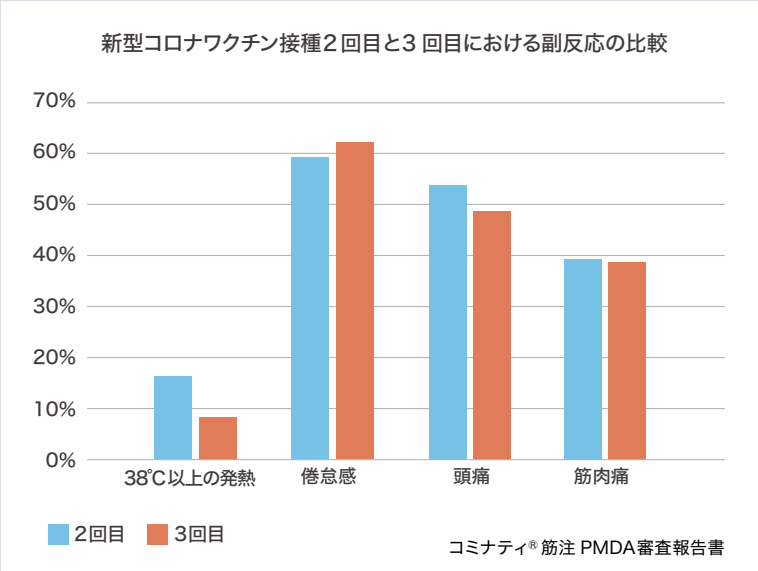
本邦での新型コロナウイルスワクチンの2回目接種率は、執筆時点の11月24日では76.2%となっています。当院におきましては、周産期医療への新型コロナウイルス感染症対応の一環として、妊婦さんへの新型コロナウイルスワクチン接種を行っています。

この度、新型コロナワクチンの全ての対象者において、感染予防効果が経時的に低下すること、また、高齢者においては重症化予防効果についても経時的に低下する可能性を示唆する報告があること等をふまえ、感染拡大防止及び重症化予防の観点から、2回接種完了者すべてに対し3回目の接種が行われることになりました。予防接種法に基づく接種としての取扱いとなっています。

実施期間は令和3年12月1日より翌年9月末となっています。投与間隔は、2回目から原則8カ月以上での接種となっています。具体的には、2回目接種を行った日から8か月後の同日から接種が可能となりますので、例えば6月1日に2回目接種であれば、8カ月後の翌年2月1日から3回目の接種可能となります。

副反応については、2回目接種後と同程度であり、重大な懸念は認められないとされています。（グラフ参照）

薬剤部



ワクチン接種

参考：厚労省ホームページ　https://www.mhlw.go.jp/content/10906000/000855688.df（2021年 11/24 アクセス）
コミナティ® 筋注（ファイザー社） PMDA 審査報告書 2021年 11月 11日

NEWS

完治への夢と希望を届けるために

2022 年、非血縁者間造血幹細胞移植をスタートします!

同種造血幹細胞移植は完治困難な白血病の患者さんに、完治への夢と希望を届けることができる治療法です。昨年は6名の患者さんに兄弟や両親、子供さんからの同種造血幹細胞移植をおこないました。日本骨髄バンクのドナーさんの骨髄採取を開始していますが、骨髄バンクドナーさんからの移植治療も今年中に始める予定です。骨髄バンクドナーさんからの移植治療をおこなうことで、少子高齢化に進むなかでも、完治を望める医療を受けるチャンスが広がります。造血幹細胞移植医療体制整備事業（厚労省）の地域拠点病院に選定され3年目になりました。地域の医療機関、医療スタッフの皆様と力を合わせて、播磨地区の患者さんによりよい医療を提供したいと思います。この地区で治療を受けたいと希望される患者さんご家族に安心して治療を受けていただけるようチーム一丸となって取り組んでいく所存です。今後ともよろしくお願いいたします。

副院長（兼）第一血液・腫瘍内科部長
平松 靖史

NEWS

人工呼吸器を安全に使用するために

人工呼吸器取り扱い研修会

呼吸ケアチームでは、毎年10月に新人研修医と中堅看護師を対象とした人工呼吸器の安全使用のための研修会を開催しております。内容は、麻酔科医師の総論、医療安全管理者から過去の事故事例の紹介、理学療法士から呼吸リハビリテーション、歯科衛生士から口腔ケア、看護師から使用中の注意点、臨床工学技士から設定や原理についての講義と実際の人工呼吸器を使用し、操作者が身近に感じられる研修になるよう心がけています。姫路赤十字病院の人工呼吸器の年間装着日数は、年間5800件（ICU1200件、一般病棟400件、小児1200件、NICU3000件）となり、安全に使用していただけるよう、多職種で連携して研修を行っております。

呼吸ケアチーム　三井 友成

NEWS

研修開催情報

令和3年度　姫路赤十字病院　看護部研修開催予定一覧

※日程は変更する可能性がありますので担当者までお問合せください。
※新型コロナウイルス感染拡大の影響から研修会を中止する場合があります。
※参加の際はマスク着用・体調管理シートの記載をお願いしています。
※e−ラーニング導入により、記載している研修が一部受講できない可能性があります。

▶レベルI研修

実施予定日時	研修名	テーマ・主な内容	講師	対象者
1/11　13:30~14:30	グローバルヘルス	グローバルヘルスについて	看護副部長	レベルI
2/22　13:30~14:30	看護倫理I	看護師にとっての看護倫理について	看護係長	レベルI
3/7　13:30~14:30	心に残った看護場面 「事例をナラティブに書いて語ろう」	ナラティブ事例の発表・共有	看護係長	レベルI

▶レベルII研修

実施予定日時	研修名	テーマ・主な内容	講師	対象者
2/21　13:30~14:30	後輩育成について	後輩育成について	教育担当者	レベルII
2/7　13:30~14:30	グローバルヘルスII	国内外の保健・医療・看護・福祉の動向について知る	看護副部長	レベルII

▶レベルIII研修

実施予定日時	研修名	テーマ・主な内容	講師	対象者
1/25　13:30~15:00	実地指導者研修	新人看護職員の理解/実地指導者の役割の理解	教育担当者	レベルIII
2/15　13:30~14:30	実習指導	実習指導者の役割/指導方法/リフレクション	看護係長	レベルIII
3/15　13:30~15:00	グローバルヘルスIII	災害時、被災地域の文化やその地域の特性をふまえ、過酷な環境下での事故の危機管理・セルフマネジメントについて学習できる	看護副部長	レベルIII

▶看護補助者研修

実施予定日時	研修名	テーマ・主な内容	講師	対象者
2/18　13:30~14:30	守秘義務・個人情報と倫理	個人情報保護に基づく守秘義務・倫理・ハラスメントについて	看護副部長	看護補助者

▶専門・認定看護師研修

実施予定日時	研修名	テーマ・主な内容	講師	対象者
1月(日未定)	小児急変時対応スキルアップコース ~PALS G2015準拠~ ⑤不整脈の管理	小児の急変時対応についての6回シリーズコース	小児救急看護認定看護師 小児科医	全体
2/16	外回り看護(基礎編II)	腰椎麻酔・局所麻酔・麻酔記録の見方	手術看護認定看護師	全体

看護師研修、専門・認定看護師研修について　詳しくは https://himeji.jrc.or.jp/kangobu/kyouiku_program.html をご覧ください。

問い合わせ先　**姫路赤十字病院　看護部**　TEL 079-294-2251(内線3001)／FAX 079-296-4050

寄贈いただきました

NEWS

ご寄贈いただきありがとうございました。
大切に活用させていただきます。

採用医師・退職医師のご案内

採用・退職

NEWS

【採用医師】

内科
専攻医
林野 健太
（はやしの けんた）
令和3年12月1日付

麻酔科
医師
門馬 和枝
（もんま かずえ）
令和4年1月1日付

患者さんのご紹介はぜひFAX紹介をご利用ください

当院では、地域の先生方と緊密な連携と役割分担を図りつつ、より良い医療を提供していくことで、地域医療の充実を目指しています。

紹介状をお持ちでない患者さんが当院を受診された際は、まず、かかりつけ医を受診していただくようお願いしていますので先生方のご支援を賜りますようお願いいたします。

また、紹介状をお持ちでも直接来院された場合、来院された日に受診出来なかったり、待ち時間が長くなったりとご迷惑をおかけすることがありますので、是非FAX紹介をご利用くださいますようお願い申し上げます。

FAX紹介受付時間	平日　8時30分～19時まで　土曜日　8時30分～12時まで
診　察　日	原則　1週間以内　＊但し、検査・診療科・診療内容により及び希望日が集中する場合がございますのでご了承ください。
問い合わせ先	地域医療連携課 TEL：079（299）5514（直通）　FAX：079（299）5519（直通）

がん相談支援センター

当院では、がんでお悩みの患者さんやご家族の方が安心してご相談いただける窓口として「がん相談支援センター」を設置しております。
当院の患者さんやご家族はもちろん、地域の方、当院かかりつけでない方もご利用いただけます。

相談予約　あらかじめ電話でのご予約をお願いいたします
病院代表：079-294-2251
直　　通：079-299-0037

受付時間　平日　8:30～17:00

相談時間　1回60分程度

また、当院2Fエントランスホールの相談支援センターブースでも相談・予約を承っております。

姫路赤十字病院だより
Vol.35
発行日　令和4年1月
発行　姫路赤十字病院
発行責任者　院長　佐藤　四三
編集責任者　広報委員長　田中　正道
〒670-8540　姫路市下手野1-12-1
電話 079（294）2251（代）
URL:https://himeji.jrc.or.jp/